

会 議 要 旨 (全文録)

会議の名称	印西地区環境整備事業組合 印西地区ごみ処理基本計画検討委員会 第4回会議
開催日時	令和4年8月21日(日)午後2時00分開会
開催場所	印西地区環境整備事業組合 3階 大会議室
議長(委員長) 氏名	大迫 政浩(国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 領域長)
出席者(委員) 氏名(人数) 敬略称、順不同	大迫 政浩(国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 領域長) 中山 育美(公益財団法人 廃棄物・3R 研究財団 企画部 上席研究員) 村上 重徳(公募による選出) 鹿目 修(公募による選出) 梶山 正信(公募による選出) 福島 壽彦(公募による選出) 池田 久美子(公募による選出) 小熊 清(印西市廃棄物減量等推進審議会委員) 山谷 修作(白井市廃棄物減量等推進審議会委員 副会長) 福本 朋子(栄町廃棄物減量等推進員) 角鹿 智章(印西市立高花小学校 校長) 坂野 仁(白井市立白井第一小学校 校長) 寺内 勝也(栄町立布鎌小学校 校長) 柘津 俊之(イオンリテール(株)イオン千葉ニュータウン店 人事総務課長) 船越 勝行(日本食研ホールディングス(株)千葉総務部 次長) 計15名
欠席者(委員) 氏名(人数)	平川 昌宏(進光園緑化(株) 代表取締役) 計1名
事務局	印西地区環境整備事業組合(印西クリーンセンター) 勝田 博之(工場長)、渡辺 祐(主査補)、長沼 徳雄(主査)、海老原 雅美(副主幹)
市・町	組合関係市町 藤巻 孝(印西市 課長)、竹田 忠夫(白井市 課長)、 塩崎 一郎(栄町 課長)
コンサルタント	コンサルタント 応用地質株式会社(4名)

発言者	内容
次第1 開会	
司会	定刻となりましたので、これより第4回検討委員会を開催させていただきたいと思ひます。大迫委員長より挨拶をお願いいたします。
次第2 委員長あいさつ	
	(大迫委員長あいさつ)
次第3 議題	
委員長	<p>それでは、早速議題のほうに入りたいと思ひますが、その前に本日の議事録署名のお願いをさせていただきたいと思ひます。山谷委員と福本委員にお願いできればと思ひます。よろしくお願ひします。</p> <p>では議題に入ります。議題(1)-1 印西地区ごみ処理基本計画(案) ごみ処理の課題と将来推計と目標値の設定について、事務局のほうからご説明よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	(1)-1 印西地区ごみ処理基本計画(案) ごみ処理の課題 説明
委員長	事務局からご説明がありましたが、皆さんの前回の意見を踏まえながら対応頂いた印象があります。それでは今のご説明を踏まえて、ご意見等を伺いたいと思ひますがいかがでしょうか。
鹿目委員	<p>P18「脱炭素社会への配慮」ということで、プラスチックに係る資源循環の促進に関する法律が4月に施行されたのですが、促進法を施行することによってリサイクル率の向上にもつながるのではないかとということ、P9にも入れたらどうでしょうか。いろいろな問題があり自治体も進まない中ではあります、自治体の財政負担が増えるのではないかと、新たな回収体制を構築しなければならないという問題も過程もあると思ひますが、自治体の財政負担については新聞によりますと国が支援するような動きもあると、そのような報道もありますので、これをリサイクル率向上の部分にも入れた方がよいのではないかとと思ひます。プラスチックの新たな設備を機械式にするのか手作業にするのか、いろいろな問題があると思ひますが、最終的にはつながるのではないかと、プラスチックを燃やすことによるカーボンゼロへの配慮も入れておいた方がよいのではないかとと思ひます。</p>
委員長	今の点はおっしゃるとおりだと思ひますので、プラスチックというキーワードもP9にも書いてはありますが、プラ新法に基づく対応・対策をより強化していくということ、少しキーワードを明示的に入れてはどうでしょうか。
小熊委員	P7ですが、資源物の内訳でレジ袋が5.4%と数値がありますね。今回の調査の結果ですが、レジ袋の有料化前の数値というのは捉えているのでしょうか。
委員長	事務局から補足説明ございますか。これはいつの時点ですかね。
事務局	レジ袋の5.4%につきましては、最近4年間の平均ということで出させていただいております。レジ袋の有料化前の数字についてはおさえていない状況です。
委員長	今レジ袋有料化になって、2年半くらい経ちましたか。7月からだったので

	<p>2年ちょっとでしょうか。4年前となると有料化前の数値もある気がするのですが、分解してみることは出来るかもしれませんよね。ひとつひとつデータのばらつきもありますけれども。</p> <p>ついでにこのレジ袋というのは、小売店で配ってきたものが有料化になったわけで、その分のレジ袋ももちろんあると思いますが、ごみをまとめて捨てるためにプラスチック製袋をわざわざ購入される方いらっしゃいますよね。そういった区別はもちろん出来ないと思いますが、そういった実態も踏まえながらこれをどこまでリサイクルに持っていけるのかというのは現実を見ながらというのはあるかもしれませんね。</p>
寺内委員	<p>P7 ですが、燃やすごみの中に資源物が入っているということですが、印西市、白井市の指定ごみ袋は、燃やすごみとプラスチックの2種類でしょうか。燃やすごみの中に資源物が入っているということですよ。プラスチックのごみ袋に入っているものはリサイクルの方に回るということで良いのでしょうか。</p>
事務局	<p>P7 に載っているのは燃やすごみの組成分析結果なので、印西、白井の青い袋、燃やすごみの中身を分析した結果です。燃やすごみの袋なのに資源ごみが混入してしまっているという図です。それ以外の黄色の袋、プラスチック製容器包装の資源物のものは、クリーンセンターには運び込まれずに中間処理業者のほうに運び込まれて、その後再生資源業者の方に運び込まれるようなかたちです。</p>
委員長	<p>本来は分別して欲しかったのに、燃やすごみに混入してしまっているということですね。1/4 くらいあるわけですから、これの分別が徹底されていくと燃やすごみの量も減らすことができるし、最終的には残渣も少なくなるので最終処分率も下がる可能性がある。いろいろなことを見ることができる数値かなと思います。</p>
梶山委員	<p>最初の P1～4 で評価があげられていますが、×がないということはそのままこれで進めたいというお考えかと思いますが、これはアウトプットにすぎないので、どういう施策を打ったからどういう効果がでていうアウトカムとか、それで社会にどういう効果がでていうインパクトとか、そういった面を捉えて評価をしていくべきだと思います。ちょっと踏み込みが甘いかなということで、もう少し分析をしっかりと、施策を打っていただきたい。</p> <p>貴重なデータをいろいろいただいているので、新しい発見があったのですが、P6 の上の図をみると、確かに数量的には千葉県と比べると低く、頑張ってきたということでデータでているのですが、千葉県等がコロナがでていなくても上がっていない、減少している状況であったのに、印西地区は増加に転じているということがあるので、この差は一体なんだろうと見ながら考えたんですが、私も専門家ではないので、個別のことはわからないのですが、このデータをファクトとして分析すれば、また細かい対応状況、先ほど言った評価等含めて見えてくるのではないかと思います。こういったところも深堀していただけると、</p>

	<p>更に良い施策を打てるかなと思いました。以上です。</p>
委員長	<p>重要な点かと思います。前半のご意見について、その通りだと思います。P1はアウトカムというところまで言えるのかどうかというところはありますが、目標に掲げたものに対する達成状況ということでアウトカムの評価に近いというふうに理解しておりますけれども、おっしゃるようにその後は行政としてどこまで計画を出したことに對してやりましたかという話で、それがP1の目標達成にどうつながったかどうかというところは、定量化が出来るところは少ないかなという気はします。私が少し思ったのは○△つけたところを、どういうやり方でつけたのかP1の下の方に書いておいていただいたほうが良いかなと思います。今ご意見の中でもありましたが、施策に対しての実施状況、取り組んだレベルを示していただいたというあたりだと思いますので、そのあたり誤解を与えないように書いていただく方が良いかなと思います。そうすると逆に、ほぼ○△なのにも関わらず、P1の目標が達成できていないということは、現状の施策をやったとしても、なかなかそれだけでは今後掲げる目標値に対して効果を出していくというのは難しさもあるのではないかという認識を持ちながら、ではどうしていくのかということも考えなければならないというようなことで理解もできるデータかなと思います。</p> <p>P6のグラフで、確かに全国・千葉県のほうは排出原単位が令和2年度でも増えていない。これは都市と田舎の方との関係で、田舎の方は増えても、都市の方は減るとか、そういった相互の関係があるかもしれません。</p>
山谷委員	<p>事業系ごみが増えていて押し上げたという部分があることは間違いなく感じます。</p>
委員長	<p>そういった分析をしても良いかもしれませんね。排出原単位は家庭系と事業系あわせたものなので、押し上げているところが家庭系はこうだけれども、事業系の方で特にとか、そういったところも深堀していただければと思います。重要なお指摘ありがとうございます。</p>
小熊委員	<p>P9のところでもリサイクル率が下がっている、それとあわせてP14のところでも最終処分場の問題がでているのですが、こちらの方は埋める量が増えていきますよね。焼却灰をセメント等にリサイクルしているのが取りやめになった影響が出ていますと思いますけれども、それをまた再開する計画はありますかでしょうか。</p>
委員長	<p>この点はコストとの兼ね合いにもなりますので、最終処分率をどう低下させていくのかということのやり方は、もちろん最初から燃やすごみの量を減らすとか、燃やさないごみなんかも含めておりますので、ごみが出てくるところで出来るだけ減らすということがひとつは原則、大事かと思いますが、では出てきたもの、焼却した後の灰までかつてはリサイクルしていたけれども、今回そういったリサイクルを、コストをかけて進めるのかどうかというところはひとつの判断だと思います。事務局のほうでは特に今後計画があるというわけではないという理解でしょうか。</p>

事務局	委員長に言っていた通りですけれども、今のところ組合のほうでは再資源化の計画はございません。
委員長	<p>いろいろな自治体で、昔は溶融とかやっていたけれども、それをセメント原料化とかもやっておられる自治体はあって、処分場がすごくひっ迫していて余裕がないところは、背に腹は代えられないということでコストをかけてでもそういった対応をしておられます。</p> <p>現状、印西地区の場合には処分場は比較的余裕があるというふうには理解しておりますので、その中でどうしていくのか、まずは出来るだけごみを出さない、燃えるごみを少なくしていくということの中で努力していくというような方法もひとつは有り得ると思いますので、そういったところも議論のポイントかなと思います。</p>
鹿目委員	P11「収集・運搬体制の見直し」の中で、「印西市及び白井市については、本組合が収集・運搬業務を委託し」ということは、つまりわかりやすい説明だと印西市・白井市については収集・運搬体制を組合に移管して、それに伴って組合が委託して民間業者へ委託料を支払って収集・運搬をしている、そういう意味合いでしょうか。
事務局	その通りです。
鹿目委員	今は印西市、白井市については自前で委託料払ってやっているわけではない。組合は収集運搬費を分担金で支払っているんですか？
事務局	そうです。
鹿目委員	なぜ聞くかというと、これからでてくる災害廃棄物の処理の問題の中に、一時避難した所の廃棄物を収集するのはそれぞれの構成市町です、ということが書かれてあり、なので新たに構成市町でも収集・運搬体制の必要があるのかなと思ひまして。
事務局	災害廃棄物の収集・運搬につきましては、まだ決定事項ではなく、これからどうすることが一番良いかというのを今話し合っているところです。ご覧になられた資料についてはその経過ということで見ていただければと思います。
鹿目委員	P12「中間処理施設の運営」の中で、焼却施設 156 t/日等とありますが、災害ごみの処理量等、前計画では記載はありましたが 3,500 t とか、その記載についてどうでしょうか。記載したほうが良いのではないかと思います。
事務局	確かに前のごみ処理基本計画の中ではそういった記載もありました。今回については、災害ごみの量の調整中ということで、現状は書いていないという状況です。
委員長	<p>私の方から、先ほどの○△のところの話は申し上げた通りです。</p> <p>それから、最後の「脱炭素社会への配慮」というところですが、(8)のタイトルにもプラスチックという言葉も入れた方が良いのではないかなと思ひています。海洋ごみの問題が脱炭素とは少し違う影響の側面ですので、そういったところも配慮していくということで、脱炭素社会への配慮とプラスチックの資源循環の促進とかそういったタイトルにしたほうがより明確になるかなと</p>

	<p>思いました。</p> <p>他にいかがでしょうか、よろしければ、またお気づきのところがあれば後ほどご指摘いただければと思いますが、ひとまずこの議題の後半「将来推計と目標値の設定」に関して事務局からご説明いただきたいと思ひます。</p>
事務局	(1) - 2 印西地区ごみ処理基本計画 (案) 将来推計と目標値の設定 説明
委員長	<p>理解しにくいところがあったらご質問いただければと思いますが、ポイントは、前回、前々回でしたか、目標の考え方のところバックキャストというご意見をいただいたというところもあって、前回はどのくらいの量になるのか将来予測をしたわけですが、それはそれとしてどれくらい目標に対して頑張っていかなければならないのかという議論はありますけれども、目標自体は、国が示しているような目標を参考にしながら、バックキャスト的にまずは目標を設定して、それに向けてどう減らしていくかという議論をご提案させていただいているというふうに理解しております。</p> <p>ご質問ありますでしょうか。</p>
小熊委員	<p>この表の中にも出てきますが、先ほど少しお話させていただきましたが、資源化焼却灰の位置づけというのはどういうことになるのでしょうか。足してみたり、減らしてみたり、P9 のグラフの意味が理解できないのですが。</p>
委員長	<p>リサイクルという問題は、リサイクルそのものが目的・目標というわけではなくて、そのリサイクルによって温室効果ガスを削減したり、ごみの最終処分量を減らしたり、いろいろな環境負荷を減らすということが本来の目的なので、処分場の問題からすると、余裕度というのは自治体によってかなり異なるということがあるので、リサイクルに焼却灰等をどう数値として入れるのか、入れないのかというのは、それぞれの考え方だというふうに理解しております。</p> <p>それから国のほうで、例えば日本全体の中でリサイクル率ベスト3みたいなことを公表していますけれども、そこでも焼却灰等のリサイクル、熔融固化してリサイクルしたりとか、あるいは茨城県では、千葉もあるかもしれませんが、RDF といって、ごみを固形燃料にして鹿嶋の方では相当の割合リサイクルしています。だからそれを入れてしまうとリサイクルの割合がガンと増えますけど、そのごみの燃料はどうしているかという、燃料としてどこかで燃やして、ボイラーの燃料として使っているということもあって、それは温室効果ガス上どうなのかという議論もあるので、ですから国が示しているベスト3も、そういった RDF とか焼却灰のリサイクルというのを除いたかたちで選んでいることもあるので、そこら辺はやはり、それぞれの自治体の考え方で良いのかなという理解をしております。</p>
小熊委員	<p>リサイクル率の考え方は各自治体みんな項目が横一列でないような気がします。</p>
委員長	<p>一般的には全部入れたかたちで比較できるようにしているのですが、ただベスト3を選ぶとき、今みたいに何々を除いたかたちで比較しますとか、前提を</p>

	<p>きちっと言ってから比較できるようにするという事かなと思うので、そこら辺が逆に印西としては焼却灰の問題をどうするのかという考え方が曖昧なままで、グラフ上除いてあったりすることが何なのか疑問が残るという意味の意見かなと理解しました。</p>
小熊委員	<p>最終処分場に猶予があるから良いというふうにして、リサイクル率目標のところ、お財布を2つで数字を分けてというのが、一般の市民に通用するかどうかなんですよね。それでいてリサイクル率が県ではどのレベルですよと公表したときに、スタンスははっきりして、焼却灰は資源ではありませんと割り切るくらいでないという説明がつかなくなるのではと思います。</p>
委員長	<p>その辺は丁寧に説明していったほうが良いかもしれませんね。今の点はおっしゃるとおりの疑問を住民の方も持つと思うので、きちんと頭においたうえでまとめていくようにしましょうか。</p>
梶山委員	<p>バックキャストで目標設定していただいているのですが、確認ですが、令和10年で計算すると661.6gが現状ということで、それから440g引いて、660gで割れば、基本的に33.5%位の減少率になりますけれども、それは結局カーボンニュートラルで2032年に46%削減というのがでているので、そのポイントとあわせて整合しているという考え方でよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>そこでの整合は取れていないと思いますが、温室効果ガスの話をどう持ち込んでくるかという重要な指摘だと思いますので、事務局としてのご検討状況、お考えはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>カーボンニュートラルの数値目標達成に寄与する数字の目標があっているかというところにつきましては、まだそこまで精査していないというのが現状でございます。そこら辺まで考えて行きたいと思います。</p>
委員長	<p>第2章でしたか、温室効果ガスの排出量、ごみ処理に係る排出量の推計も今回だしていただいたわけですが、かなりの部分がプラスチックの焼却になります。ですからそこをどうしていくかというところが、440gまで減らすということとか、あるいはリサイクルをより促進していくということの中で、どのようにきちんと分析して盛り込んでいけるかというところを見ながら、今のお答えに対してどれくらい貢献できるのかということは、見ていく必要があるかなと思います。</p>
鹿目委員	<p>今の関連ですが、P8「ごみ排出量の目標設定」これを目標設定するという事ですよ、予測値とは別に。つまりはR10年、2032年には一人当たり440gに持っていきたい、片や予測値では466.1gですよ、その差26gくらいありますが、これを施策でもって達成していききたいという考え方はですね。施策というのを、コロナも長引くようだし、わからないですけどこれは、その中で施策で達成できそうなのは私の考えでは、プラ新法が施行すればいくらか減量できるかなとか、と今の状況で食品ロス、アンケート調査等の調査の中で、未開封のロスが10%とかなり多く含まれていたもので、それをクリアすれば、ということなのでしょうけれども、この26gをあげるためには、達成できそうな可</p>

	<p>能性を含ませないといけないと思うのですが、その辺どうでしょうか。</p>
事務局	<p>プラ新法につきましては、おっしゃられる通り施行されております。プラ新法の資源化を図るのに、再資源化計画というのをつくるか、又は容リ協会ルートという法律に基づくルートで処理するか、だいたい2種類考えられるのですが、当組合としては容リ協会ルートのほうで対応を考えておりました。</p> <p>来年度以降の申し込みにつきましては、容リ協会さんの方からごみ質の詳しいものを提出してくれと言われるのですが、組合ではまだそこまで持っていないので、それをどうしたら良いか問合せしているが、明確な回答を頂けていない状況でして、そうなりますと来年の今頃の時期に申込みがございます。その時にエントリーできるよう準備したいと思いますが、来年度準備した場合でも実際にできるのは再来年度というかたちになります。</p> <p>また、収集したとしても中間処理事業者さんが中間処理するための設備を入れなければならない状況になっておまして、今意見交換をしていると、半導体問題ですとか、いろいろな問題ですぐ対応するのは難しいという話は聞いております。</p> <p>ただ組合としてもごみの減量化のためには必要なことと考えておりますので、そういった事業者との調整ですとか、構成市町の皆さんと調整しながら、出来るタイミングで容リのプラ製品の分別の収集を行っていければと考えております。ただ内容につきましては、こういった事情があって不確定なところが多くなっております。</p>
委員長	<p>新しいごみ焼却施設の施設づくりにも国から交付金が支給される場合には、プラスチック新法に対応することが条件になっておりますので、これはまったなしで、ただいつのタイミングというのは事務局のほうからご回答あったように検討されていくと思いますので、いずれにしてもプラスチックの問題に関する施策の強化というのは必然としてやっていかなければならないということかなと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。それ以外のところでも、先程もこの目標も踏まえながら、ごみ処理の課題等で、追加でお気づきの点があるとかでも結構かと思えます。</p>
中山委員	<p>目標とか施策の見直しが必要になるかもしれないということであったので、先ほどの第4章の課題の方の資料で、例えば P5 とか、課題の後に矢印が引いてあって、施策1、2、3、7と引っ張ってあるのですが、現状の施策ですと、ちょっと引っ張られていてもどうかなという気がしてしまったのですが、これは例えば目標値の後にくる重点施策につながるというような書き方になってくるのかなと思ったのですがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今の資料は仮置きした状態で載せさせていただいておりますので、ご指摘のとおり新しい施策が出来てきた段階で書き換える予定です。</p>
委員長	<p>この計画は組合が事務局としてつくっていますけれども、構成市町も一緒につくったというかたちで、確か参考資料3とかだと印西市、白井市、栄町、そ</p>

	<p>して組合の名前が書いてあるので、組合がつくるとなると構成市町との責任関係が私もよくわからないなと思っていたのですが、これは共同でつくる作業なので、それを目指して頑張っていかなければならないということです。構成市町もそうだと思うのですが、ごみ排出量とか、資源化量とか、リサイクル率とか、いろいろと目標を立てましたけれども、それは構成市町それぞれがどこまで頑張ったらいいいのかという分解は出来るのでしょうか。つまり、例えばごみ発生量はいろいろな地区から収集車とか委託した者が運んできて、一応それが秤にのせられて量ることになりますけれども、この車両は栄町が運んできた車両だから何gとか、実績として分けていますか。今は人口比で分けているだけですか？</p>
事務局	<p>ごみの組成につきましては、それぞれ市町ごとに組成分析しておりますので、それは実態として把握しております。またそれぞれの市町でどういった施策をやっているかということにつきましては、例えばそれぞれの市町の基本計画とか、ごみ減量化計画とかに位置付けられて、どのように加えるのかというのは、それぞれ取組まれて良いと思います。</p>
委員長	<p>実績としてもきちんとそれぞれで把握されているわけですし、今日はそれをまとめて3市町でひとつの目標ということで立てましたけれども、これを達成するとき、この市は頑張ったけど、この市は頑張らなくて結局どうだった、みたいなことがあるかもしれませんよね。その時に、それぞれが責任の所在というか、そういったものを意識しながらやっていくという運用・運営が良いのではないかなと思うので、私としては今の目標と、実際の今後どれくらい排出されるかという乖離が、それぞれの市町でどれくらいハードルがあるのかとか、そのような点が見えるようになると良いと思います。例えば、栄町は先に有料化を進めているので、発生量が他より少ない状況になっており、目標値に近い状況かと思いますが、そういったところも見えてくると、それぞれのモチベーションにもつながるかなという気がします。</p>
梶山委員	<p>最後のページ、施策の検討方法、これはたぶん私が言ったアウトプットとかアウトカムとかの話につながっていくと思いますけれども、ちょっと考えていただきたいのが、施策をやる時にどこに重点を置くのか、まずやらない事を決めて、やるべき事を決めるというやり方ですから、影響度の高いものとするれば、生ごみの資源化、家庭における食品ロスとかが令和3年度実績で229.62gという数字化のインパクトから見てもとか、下の紙ごみの資源化、また事業系ごみで言えば原単位の減量化、左の方が数値が大きいわけですから、ここにどれだけしっかり施策を打っていくかというのがまず重要ではないかなと、この数値を見ただけでも思います。そこに対してどういう施策を打って、どういう改善を図っていくかという着目点があって、そこでも難しいということであれば、他に打つ手があるかというかたちになるかと思いますが、その点は考えた上で施策の立案をお願いできたらと思います。</p>
委員長	<p>今の点、非常に重要ですので、今ごみ処理の課題のところでは大きく8項目</p>

	<p>をゴミの流れとか、影響要素とか踏まえて分けられています、その中身として特にゴミの組成的に何がものとして対策を進めなければならないのかとか、あるいは家庭系、事業系でどのあたりを重点的にやらなければならないのか、課題があるのかというところが、見えるようなかたちで、先ほど委員がおっしゃった深堀ということと関係すると思うので、もう少しその点が見えると後の重点施策のところとメリハリがでてくると思いますのでよろしくお願ひします。</p> <p>かなり深い議論ができたと思いますので、最後のほうで時間があれば全体通した議論もさせていただきます。まずは先に進めさせていただきます。ご説明よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	(2) アンケート調査の報告(速報値) 説明
委員長	興味深い結果で、まずは速報というところでしたけれども、なにか感想でもいいですし、もう少し分析できないか等も含めていかがでしょうか。
山谷委員	<p>先ほどプラスチック一括回収、これがかなりゴミの減量、リサイクル率に効果的というお話ありましたけれども、それ以上に効果的なのは経済的手法ではないかなと考えています。経済的手法ですけれども、事業系と家庭系両方について今回アンケートの結果が出ております。P35の事業系で、「納得できる理由があれば実施しても構わない」が62%くらい、「実施しても構わない」とストレートに答えている事業所もありまして、合わせると64%ですよ。これはかなり高い、つまり手数料見直しについて、かなり排出事業者の理解が行き届いていると感じました。</p> <p>そしてその前の問い、「ゴミの減量やリサイクルの取組の意義についての考え」ですけれども、「自社の社会的責任としての取組」という回答が一番多かったですけれども、かなり排出事業者としての責任ということも理解されているということを考えますと、非常に良い材料が把握できたというふうに思います。</p> <p>事業系のごみ処理手数料を設定してそれで終わりということではなくて、定期的に見直しが必要ではないかなと思います。排出事業者のことも配慮して、あまり頻繁に2、3年おきに改定となると負担も与える影響も大きいと思いますので、できれば10年に1回くらいは最低限見直しが必要だと思いますし、そのくらいの間隔があればこういったアンケート結果も踏まえて、排出事業者も受け入れてくれるのではないかなというふうに思います。ちょうどこの計画期間を考えますと、ちょうど良い見直し時期がくるのではないかなということ、非常に良い結果がでていと受け止めました。</p> <p>もうひとつ、家庭ゴミのほうですけれども、P11にでております。これを見ますと、これはそのままは利用できないと思います。何故このままでは利用できないかという、既に有料化を実施している栄町がここに含まれている、一緒になっているということで、これはそのままでは利用できない。私も自治体のアンケート調査をいろいろ見ているのですが、肯定回答が62%というのははじめ</p>

	<p>て見ました。それは栄町が含まれているからこういうふうになるのだろうと思います。従いまして、印西・白井の2市の分だけというのがひとつ、もうひとつは栄町で有料化されている住民の受け止めはどうかというあたり、栄町だけ単独でやっていただけますと、「実施すべきでない」といった反対意見の方の意向もわかりますし、「納得できる理由があれば実施しても構わない」「実施しても構わない」が多ければ、有料化に対する受け止めがかなり好意的ということも把握できますので、ぜひ次回は家庭ごみの有料化については2市と1町で分けていただければと思います。以上です。</p>
委員長	<p>重要なご指摘かと思えます。有料化に関しては議論が必要だというご認識を、組合も構成市町も持っておられると思えますので、今の山谷委員からの分析を工夫してくださいという点はよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。承知しました。</p>
船越委員	<p>アンケートまとめていただいてありがとうございます。非常に貴重な意見もありますが、私が個人的に気になるのは、有効回収率 27.9%というのは、前回と比べてどうかということが1点と、27.9ってことは1/3ですかね。これは住民アンケートの結果については、ごみの処理、リサイクルに関心があるというのは、もしかすると関心のある人がちゃんと答えてくれたのかな、こういった結果がでているのかなというふうにも考えられるなと思いました。そう思うと、1/3の人の意見、関心のある人の意見がこうなんだというところも少し意識して、今後の施策等考えた方が良くと思いました。</p>
事務局	<p>前回アンケートの回収率ですが、住民アンケートに関しては553件、回収率が29.1%。事業者アンケートに関しては54件、回収率が54%となっております。冒頭にもご説明させていただきましたが、まだ反映できていないアンケート結果もございますので、多少有効数と回収率は上がるものと考えております。</p>
委員長	<p>住民アンケートはだいたい同じくらいになる可能性がありますね。事業者の方が少ない感じはあるかもしれませんが。次回最終的な集計を見せていただければと思いますし、それから回答されている方の属性というのは頭に置いておかなければならないので、意識の高い方が答えているのではないかという見方、それから住民ですと若い方の回収率がかなり低くて、50代60代が多くなるというのは、アンケートは大体こうなってしまうのですが、そういった点も頭に置いて施策を考えなければなりません。いろいろな意識啓発でアプリとかいろいろななかたちで情報発信していても、今は違うかもしれませんがデジタルに対して抵抗感がない若い世代ほどあまり関心がなかったり、逆に60代以上の方々でデジタルの情報をあまり見ないような方は意識が高かったり、ちぐはぐなところもあるので、どうやって無関心層に対していろいろな施策を考えていくのかということも大事だし、ゆくゆくはこういった議論にも若い世代が参加してもらおうような枠組みをつくっていかないと、いろいろなアイデアが出てこないかもしれません。ちょっと余計なことだったかもしれませんが、他にいかがで</p>

	<p>しょうか。</p>
鹿目委員	<p>今回のアンケート P8、フードドライブ等を実施していないという人が 68.9%で7割近くいるという結果が、家庭ごみの燃やすごみの展開検査で、厨芥ごみの10%は未開封の食材が入っていたということになると思います。これを防ぐためにはフードドライブに持って行ってもらおうというのもひとつあげられます。フードドライブも良いが、身近なスーパーマーケットとかの協力店を増やすというのがひとつの手段だと思われま。</p> <p>フードドライブ協力店というのは登録制ですか。そして今どれくらい市内にあるか把握されているのでしょうか。身近にそういったものを増やせばこういった未開封のものを捨てるといったことを防げると思います。その辺いかがでしょうか。</p>
委員長	<p>今後の施策の議論にもいろいろ調査しなければならない部分かもしれませんが、今現状把握している情報はありますか。</p>
事務局	<p>フードバンクにつきましては、各自治体の社会福祉協議会でやられているというのは把握しているのですが、どのくらいあるのかということについては組合では把握していない状況でございます。聞いている感じでは市町も同じような感じです。</p>
委員長	<p>そういったところにどうやってアプローチしていくかということも含めて、今後施策について議論の深堀時には参考情報あれば整理いただければと思います。</p>
梶山委員	<p>事業系ごみの価格について、私も農水省時代に、ほとんどの自治体が一桁台の料金で燃やしているという実態から言えば少なくとも 40～50 円代で経費として燃やしていると思いますけれど、安い値段で燃やすことが食品残渣の活用につながっていないということで、さんざん環境省に申し入れていましたので、まったく同意見です。その辺は是正をしっかりとっていくことが、住民のためになるし、自治体のためにもなっているということをしかり PR、教育していただくよう、皆さんで共通認識を持っていただくようお願いしたい。</p> <p>あと、今おっしゃられたようにせっかくフードドライブやこども食堂とか増えていて、良い取組をされているところが増えていきますので、P8 で、実際取り組める人が取り組めていないというのはどこかにマーケティングでいうところのペインポイントがあると思います。そのペインポイントを押してあげる、いわゆるグリーン成長戦略のナッジという取組ですけれども、ナッジを押していくという取組を施策としてしっかりと入れていくことが必要ではないかなと思っています。</p> <p>カーボンニュートラルの中でもそこは非常に重要視されていますので、施策で太陽と北風というのがありますけれども、北風の部分ではご理解が得られている部分については、このデータは十分参考になりますし、また難しい点につきましては、ナッジとか最新の経営学を利用した考え方に基づいて施策を打っていけばかなり効果は出てくるのではないかと思いますのでぜひやっていた</p>

	<p>だきたい。</p> <p>特に白井市はゼロカーボンシティ宣言されていますので、先ほど申しましたように 46%宣言というのは、市としてはそこにターゲットを落として削減に取り組まれると思いますので、そことの整合性は絶対でてくると思いますので、そういった意味でもしっかり取り組んでいただけたらありがたいなと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>施策のところではぜひそういったところも検討いただいて、山谷委員から経済的手法とありましたが、もちろんインセンティブとして減らす方向に働かせるような受入料金の話もありますし、どちらかという課金するだけではなくて、うまく行動経済学的に後押しをしていくような工夫、今いろいろな国でこんなふうになれば良いのではないかという検討等、それぞれの分野でもやっていると思いますので、コンサルの方にも勉強して整理いただきながら、従来型の施策からもう少し効果がでるような工夫をどうできるかというところも検討いただければというふうに思います。</p>
小熊委員	<p>P3 のところで、関心が高いというページがでています。あと P25 のところで、自由記述の上から 3 番目ですけれども「情報の発信をしてほしい」という意見がありますし、個別に読んでいきますとそういった意見が多いです。</p> <p>実は前回の基本計画の更新の際に私も関わっていますけれども、進捗、その他の公表をしましょうという願いをしました。委員長もご存じだと思いますけれども、その中で公表されていなかったもので、昨年度申し入れをしまして、現在 HP のほうに、印西地区ごみ処理基本計画の目標値と実測値の項目が一項目ありまして、昨年 10 月お願いした後公表していただきました。しかし残念ながら更新されていないですね。その時の数値そのままなんです。前年度は終わって公表しているわけですから、当然公表していただきたいです。全国で見ますと、近場ではさいたま市が毎月公表しています。更新しています。それから、今問題になっています宇都宮市も清掃工場で火事がありましたので、5 割削減ということを目標に市長直々でやっていますので、これも毎月公表しています。少なくとも年度なら年度の公表をしっかりと、情報の提供をしっかりといただきたいです。よろしく願いします。</p>
事務局	<p>はい。わかりました。</p>
委員長	<p>いろいろな反省点があるので、目標を掲げた計画をつくったからには、実行していく PDCA のところは、本検討をはじめた最初のところでもご指摘ありまして、デジタルの時代なので、そういったものに関してきちんと対応していくデジタイゼーション、デジタルライゼーション、デジタルフォーメーションこの 3 つの DX という、ただ単に情報をデジタル化するだけではなくて、どう発信して、どういうふうに社会の行動変容に繋げていくかというフォーメーションを変化させるところまでやらないといけませんので、結局先ほどの有料化も納得いく理由があればいいとありましたが、では納得する理由ということの危機感を住民全体が共有できていないわけですね。発信がないから。そういったと</p>

	<p>ころも今後の大事な反省点かなと思いますので、今のご指摘は真摯に受け止めてやっていくべきかなと思います。</p>
福本委員	<p>アンケート調査の P10 にごみ分別アプリというお話がでていて、私が勉強不足なのですが、ごみ分別アプリを理解していなくて、印西市さんはあるのかなと思ったのですが、栄町はごみ分別アプリを導入しているのでしょうか。</p>
栄町	<p>本町もあります。</p>
福本委員	<p>わかりました。全然わかっていなかったもので、防災とかは町の配信で来るんですけども、ごみ分別アプリがあるという情報が自分の携帯に入っていないので、スマホはほとんどの方が見ているので、どんどん利用して、またアプリがあるということを伝えていってもらえればと思います。</p>
委員長	<p>SNS やそういったところの工夫で、若い世代まで含めて理解を図っていくというのが今後のカギだと思いますので、ぜひよろしくお願いします。</p> <p>少し延長するかもしれませんが最後の議題について、事務局からご説明よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>(3) 災害廃棄物処理計画の作成状況 (処理に関する基本方針等) 説明</p>
委員長	<p>何かご質問等ございますでしょうか。</p>
鹿目委員	<p>2 つほどありますが、まず 1 つは対象災害ですが、水害と地震になっていますが、2、3 年前千葉県を台風が直撃しましたよね。こういった風害、風による害は想定していないのでしょうか。</p> <p>もうひとつは P5、処理施設で、受入可能な処理するものと、処理できないものがあると思いますが、その保管場所というのはやはり分けするのでしょうか。</p>
事務局	<p>処理するものの分けにつきましては、分別をしていただいて仮置場のほうに置いていただいて、順次処理していくことになろうかと思います。その中には、ここにも書いてありますが印西地区で処理できるものと処理できないものがありますので、できないものについては例えば産業廃棄物として処理していくとか、また他の方法で処理していくようなかたちになるかと思います。</p> <p>細かい分別のかたちですとか、収集につきましては、今後関係する自治体さん等とご協議させていただくことになると思います。</p> <p>風水害の災害想定につきましては、基本的に大きいのは地震災害と、水害です。そこでこちらを中心にやらせていただいて、前回の台風につきましては令和元年に大きい台風が直撃した処理はありますけれども、その際にはこの地震ですとか風水害の規模までいっていないので、この辺を想定していくことで、前回の台風のようなケースは対応できるかと考えております。以上です。</p>
委員長	<p>途中経過的なかたちで試算していただいて、新しい焼却施設で 3 年以内に最大発生量のケースでも処理できないところは広域処理をしていくというようなところの可能性とか、そういったところが相場として検討いただいたところ。また引き続き議論をしていって、その中においては、今度はどうやって処理を進めていくのかという役割分担も含めたところを今後検討していただ</p>

	<p>けるというふうに理解しておりますし、それぞれ災害廃棄物の処理毎のルート等検討していただくということかなと思います。</p> <p>よろしければこれで最後の議題が終了ということで、10分弱時間超過しましたけれども終わりたいと思います。</p> <p>司会進行を事務局にお返しします。よろしくお願いいたします。</p>
次第4 閉会	
事務局	<p>大迫委員長お疲れ様でございました。</p> <p>お配りした資料の中に、参考資料としまして町田市のバイオエネルギーセンターの視察研修の概要等添付させていただいておりますが、大変申し訳ございませんが時間の関係でご説明割愛させていただきますが、後ほどご覧いただければと思います。</p> <p>最後に連絡事項ですが、次回第5回検討委員会の日程について、当初から変更なく、9月11日（日）14時から開催予定となります。資料作成の関係上、開催通知等が直前になってしまいますが、9月11日（日）14時からということでご承知いただければと思います。</p> <p>以上をもちまして第4回印西地区ごみ処理基本計画検討委員会を閉会とさせていただきます。本日は大変お疲れ様でございました。</p>